

授業計画(シラバス)

科目名	救急医学概論 I		指導担当者名	高橋 利行
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事			実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	4単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の重要性を理解し、系統立てた観察項目について理解する。 ・観察用資機材の構造と使用方法について理解する。 ・全身状態から局所状態の観察について列挙し所見について理解する。 ・傷病者等との良好な関係構築方法と問診内容について理解する。 ・緊急度・重症度判断を理解できる。 ・傷病者の状態に応じた応急処置等を理解する。 ・傷病者の状態に応じた救命処置等を理解する。 			
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、20点満点の試験を5回行い、その合計得点にて行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 			
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、救急観察処置スキルマニュアル			
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習及び問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	観察総論①	観察の目的と意義、バイタルサイン	P300
	2	観察総論②	観察の方法	P300～P303
	3	全身状態の観察①	外見の観察	P304～P305
	4	全身状態の観察②	気道・呼吸・循環に関する観察	P305～P310
	5	全身状態の観察③	意識状態に関する観察(JCS/GCS)	P310～P311
	6	局所の観察①	観察結果の表現皮膚・頭部・顔面・頸部	P312～P316
	7	局所の観察②	胸部・背部・腹部	P316～P318
	8	局所の観察③	鼠径部～骨盤・四肢・手指・各種病態AR	P319～P321
	9	神経所見の観察	運動機能～髄膜刺激症状・神経学的異常	P322～P326
	10	緊急度・重症度判断	緊急度と重症度・判断の基準	P327～P331
	11	資器材による観察①	パルスオキシメーター～血圧計	P332～P337
	12	資器材による観察②	心電図モニター～血糖測定器	P337～P343
	13	効果測定A	観察・現場活動・緊急度判断・資器材	
	14	救急救命士が行う処置①	気道確保・気道異物除去・口腔内吸引	P345～P351
	15	救急救命士が行う処置②	声門上気道デバイス	P351～P357
履修上の留意点				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら学ぶ意識を醸成する。 2. 傷病者の観察、判断、処置が傷病者の命を左右することを重大さを意識づける。 <p>※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。なお、対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	救急医学概論 I		指導担当者名	高橋 利行
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事			実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	4単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を活用した観察方法を理解する。 ・観察用資機材の構造と使用方法について理解する。 ・五感を活用した観察情報と観察用資器材を用いた情報の意味合いを理解する。 ・傷病者等との良好な関係力構築方法と問診内容について理解する。 ・緊急度・重症度判断を理解できる。・傷病者の傷病状態に応じた救命処置等を理解する。 			
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、20点満点の試験を5回行い、その合計得点にて行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 			
使用教材	救急救命士標準テキスト第10版、救急観察処置スキルマニュアル			
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習及び問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	16	救急救命士が行う処置③	気管挿管	P358～367
	17	救急救命士が行う処置④	気管吸引、酸素投与	P367～371
	18	効果測定B	声門上気道デバイス、気管挿管	
	19	救急救命士が行う処置⑤	静脈路確保と輸液	P383～P383
	20	救急救命士が行う処置⑥	アドレナリン投与・ブドウ糖投与	P388～P395
	21	効果測定C	静脈路確保と輸液・薬剤投与	
	22	体位管理	体位管理・体温管理	P394～P399
	23	外傷処置	止血・創傷処置・固定	P399～P418
	24	心肺蘇生法	人工呼吸、胸骨圧迫、除細動器	P372～P383
	25	救急蘇生法	〃 心肺蘇生のプロトコール	P419～P428
	26	効果測定	体位管理・外傷処置・心肺(救急)蘇生	
	27	産婦人科領域の処置	産婦人科領域の処置	P415～P418
	28	在宅療法継続中の傷病者の処置	在宅医療(療養)とは・在宅療法への対応	P429～P435
	29	傷病者搬送法	搬送総論～事故車両からの救出方法	P436～P451
	30	効果測定D	心肺蘇生・傷病者搬送	
		テスト	定期試験	
履修上の留意点 <ol style="list-style-type: none"> 1. 傷病者の観察、判断、処置が傷病者の予後について左右すること、重大さを意識づける。 2. 国家試験問題と関連づけた理解を導く。 3. 現場実践技術に効果ある知識の習得のためシミュレーションや資器材取り扱いと連携した教育の実施 <p>※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。なお、対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	救急医学概論Ⅱ		指導担当者名	高橋 利行
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事			実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の救急医療体制について理解する。 ・市民の行う一次救命処置の普及啓発活動の重要性を理解する。 ・メディカルコントロールの下で行う消防機関の救急活動について理解する。 ・災害医療体制について理解する。 			
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験と授業態度、小テストを総合して行う。 評価は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A, ・高い程度に達成しているもの…B, ・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)</p>			
使用教材	改訂第10版救急救命士標準テキスト、標準多数傷病者対応MCLSテキスト			
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	救急医療体制	救急標準テキスト(改訂第10版)P218~P231	
	2	救急医療体制	救急標準テキスト(改訂第10版)P218~P231	
	3	災害医療体制	救急標準テキスト(改訂第10版)P232~P244	
	4	災害医療体制	救急標準テキスト(改訂第10版)P232~P245	
	5	病院前医療体制	救急標準テキスト(改訂第10版)P220~P224	
	6	消防機関における救急活動の流れ	救急標準テキスト(改訂第10版)P245~P252	
	7	消防機関における救急活動の流れ	救急標準テキスト(改訂第10版)P245~P252	
	8	救急活動時のコミュニケーション	救急標準テキスト(改訂第10版)P253~P259	
	9	救急活動時のコミュニケーション	救急標準テキスト(改訂第10版)P253~P260	
	10	救急救命士に関連する法令	救急標準テキスト(改訂第10版)P260~P270	
	11	救急救命士に関連する法令	救急標準テキスト(改訂第10版)P260~P270	
	12	救急救命士の生涯教育	救急標準テキスト(改訂第10版)P271~P275	
	13	安全管理と事故対応	救急標準テキスト(改訂第10版)P276~P281	
	14	感染対策	救急標準テキスト(改訂第10版)P282~P293	
	15	ストレスに対するマネジメント	救急標準テキスト(改訂第10版)P294~P297	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 				

授業計画(シラバス)

科目名	環境障害・急性中毒	指導担当者名	高橋 利行
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事		実務経験： 有
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科1年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
単位数	2単位	週時間数	2時間
学習到達目標	環境障害・急性中毒などの外部因子で発生する救急疾患・症候について理解できる		
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版		
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画後期	1	中毒総論	テキストに準拠 P.788～790
	2	中毒総論	テキストに準拠 P.790～795
	3	中毒各論	テキストに準拠 P.796～802
	4	中毒各論	テキストに準拠 P.802～807
	5	異物	テキストに準拠 P.808～811
	6	溺水	テキストに準拠 P.812～814
	7	熱中症	テキストに準拠 P.815～818
	8	熱中症	テキストに準拠 P.818～820
	9	偶発性低体温	テキストに準拠 P.821～822
	10	偶発性低体温	テキストに準拠 P.822～823
	11	放射線障害	テキストに準拠 P.824～827
	12	放射線障害	テキストに準拠 P.827～832
	13	その他の環境障害	テキストに準拠 P.833～836
	14	その他の環境障害	テキストに準拠 P.836～839
	15	まとめ	まとめ
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 			

授業計画(シラバス)

科目名	シミュレーション I	指導担当者名	渡邊 好孝
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	救急救命士科1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:○
単位数	10単位	週時間数	16時間
学習到達目標	1 五感と観察用資器材を活用し傷病者を的確に観察できる。 2 救命処置の適応者を判断し安全に適切な処置が行える技術を身につける。 3 傷病者の症状に適した体位管理と搬送ができる。 ・BLS(市民向け、医療従事者向け)の習得。 ・隊活動における一連の流れを習得する事ができる。 ・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける事ができる。		
評価方法 評価基準	学習評価は、以下の単元ごとに20点満点の試験、授業終了後のシミュレーション試験を行い、その合計得点にて行う。 評価は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格) ※単元…1 初期評価と心肺蘇生 2 声門上気道デバイスによる気道確保 3 気管挿管 4 静脈確保とアドレナリン投与 5 血糖測定と、ブドウ糖投与		
使用教材	救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル		
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画前期	1	五感を活用した観察	バイタルサイン、全身観察
	2	資器材を活用した観察	聴診器、体温計、血圧計等
	3	資器材を活用した観察	ECG、カプノメーター
	4	気道確保、人工呼吸	用手気道確保、BVMによる人工呼吸
	5	外傷処置	三角巾、副子等
	6	体位管理、搬送法	ストレッチャー、バックボード
	7	酸素、AED、BVM	酸素、AED
	8	気道確保、異物除去	用手、エアウェイ、喉頭鏡
	9	搬送法	緊急救出(毛布、スクープ等)
	10	産婦人科領域の処置	分娩介助等
	11	在宅療法継続中傷病者処置	在宅傷病者の療法別対応
	12	産婦人科領域の処置	分娩介助等
	13	効果測定	観察要領、体位管理、搬送法
	14	心肺蘇生	BVM、AED、シミュレーター
	15	心肺蘇生	BVM、AED、シミュレーター
履修上の留意点 1 シミュレーションをより効率的に進めるため、学生は積極的に参加し行動すること。 2 使用救急資器材の配置場所の把握と愛護的な取り扱いを徹底すること。 3 シミュレーション開始前に体操を行うこと。 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。なお、対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。			

授業計画(シラバス)

科目名	シミュレーション I		指導担当者名	渡邊 好孝
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事			実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
単位数	10単位	週時間数	14時間	
学習到達目標	<p>1五感と観察用資器材を活用し傷病者を的確に観察できる。 2救命処置の適応者を判断し安全に適切な処置が行える技術を身につける。 3傷病者の症状に適した体位管理と搬送ができる。</p> <p>・BLS(市民向け、医療従事者向け)の習得。 ・隊活動における一連の流れを習得する事ができる。 ・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける事ができる。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、以下の单元ごとに20点満点の試験、授業終了後のシミュレーション試験を行い、その合計得点にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A, ・高い程度に達成しているもの…B, ・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格) ※单元…1 初期評価と心肺蘇生 2 声門上気道デバイスによる気道確保 3 気管挿管 4 静脈確保とアドレナリン投与 5 血糖測定と、ブドウ糖投与</p>			
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、救急観察処置スキルマニュアル			
授業外学習 の方法	テキストを使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	16	声門上気道デバイス	i-gel、コンビチューブ、LT、LM	
	17	声門上気道デバイスを含めた隊活動	適応症例に対する想定訓練	
	18	効果測定	声門上デバイス	
	19	気管挿管	気管内チューブ、スタイレット	
	20	気管挿管を含めた隊活動	適応症例に対する想定訓練	
	21	効果測定	気管挿管	
	22	静脈確保	留置針、輸液セット	
	23	静脈確保を含めた隊活動	適応症例に対する想定訓練	
	24	アドレナリン投与	輸液セット、アドレナリン	
	25	アドレナリン投与	輸液セット、アドレナリン	
	26	効果測定	輸液・アドレナリン投与	
	27	血糖測定、ブドウ糖投与	血糖測定器、輸液ライン、ブドウ糖	
	28	血糖測定、ブドウ糖投与を含めた隊活動	適応症例に対する想定訓練	
	29	効果測定	血糖測定とブドウ糖投与	
30	エピペン	エピペントレーナー		
<p>履修上の留意点 1シミュレーションをより効率的に進めるため、学生は積極的に参加し行動すること。 2使用救急資器材の配置場所の把握と愛護的な取り扱いを徹底すること。 3シミュレーション開始前に体操を行うこと。 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。なお、対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	シミュレーションⅡ		指導担当者名	高橋 利行・渡邊 好孝	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事			実務経験:	有
開講時期	通年		対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
単位数	10単位		週時間数	10時間	
学習到達目標	<p>1個々の救命処置スキルのさらなる質向上を目指す。 2隊員間の情報共有と役割分担を円滑に行うことができる。 3安全管理を意識した救急活動を行うことができる。</p> <p>・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける。 ・リスクマネジメントを含め、適切な判断ができる。 ・各病態について原因から処置まで説明、実施する事ができる。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、前期効果測定、後期効果測定を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)</p>				
使用教材	救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル				
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	基本的な救急活動	状況評価から継続観察まで		
	2	疾患対応(異物)	早期異物除去と呼吸管理		
	3	外傷対応(転倒)	転倒原因の把握と適切な処置		
	4	疾患対応(胸痛)	適切な観察と緊急度判断		
	5	外傷対応(交通外傷)	緊急度判断と適切な処置		
	6	外傷対応(墜落・転落)	推定外力と受傷部位の想像力		
	7	疾患対応(意識障害)	観察・問診からの原因疾患の特定		
	8	CPA対応(VF)	早期除細動とアドレナリン投与		
	9	疾患対応(アナフィラキシー)	バイタルサインの把握と輸液		
	10	疾患対応(重症熱傷)	保温・感染防止と輸液		
	11	中毒対応(硫化水素)	安全管理・応援要請と現場保存		
	12	疾患対応(精神科)	傷病者接遇及び警察官との連携		
	13	災害対応(列車事故)	先着隊の行動		
	14	災害対応(交通事故)	応援隊の行動		
	15	前期効果測定	疾患対応		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	シミュレーションⅡ	指導担当者名	高橋 利行・渡邊 好孝
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	救急救命士科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
単位数	10単位	週時間数	20時間
学習到達目標	<p>1個々の救命処置スキルのさらなる質向上を目指す。 2隊員間の情報共有と役割分担を円滑に行うことができる。 3安全管理を意識した救急活動を行うことができる。</p> <p>・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける。 ・リスクマネジメントを含め、適切な判断ができる。 ・各病態について原因から処置まで説明、実施する事ができる。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、前期効果測定、後期効果測定を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A, ・高い程度に達成しているもの…B, ・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)</p>		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第10版、救急観察処置スキルマニュアル		
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	疾患対応(意識障害・頭痛)	観察・問診・運動機能観察
	17	疾患対応(痙攣)	問診と観察からの緊急度判断
	18	疾患対応(めまい)	観察と問診及び医療機関選定
	19	疾患対応(呼吸困難)	症状の把握と緊急度判断
	20	外傷対応(交通外傷)	緊急度判断と適切な処置
	21	外傷(刺創)	バイタルの把握と適切な外傷処置
	22	CPA対応(溺水)	吐物除去と呼吸管理
	23	CPA対応(乳児)	呼吸管理と胸骨圧迫
	24	疾患対応(動悸)	問診と心電図波形の判断力
	25	疾患対応(意識障害)	意識障害の原因特定と緊急度判断
	26	中毒対応(胸痛)	胸痛の原因特定と緊急度判断
	27	疾患対応(腹痛)	腹痛の原因特定と緊急度判断
	28	外傷対応(失神)	緊急度判断と適切な処置
	29	外傷対応(腹部外傷)	緊急度判断と適切な処置
30	後期効果測定	外傷対応	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 			